

令和 7 年 8 月
関西広域連合議会定例会

報 告 書

令和 7 年 9 月 11 日

関西広域連合議会議員 原 徹 臣
同 福 山 博 史
同 北 島 一 人

議 事 日 程

令和 7 年 8 月 28 日 (木)

午後 1 時 00 分開議

第 1 諸般の報告

第 2 会議録署名議員の指名

第 3 会期の決定

第 4 第 10 号議案及び第 11 号議案（広域連合長提案説明）

第 5 一般質問

第 6 第 11 号議案（討論・採決）

第 7 第 10 号議案（総務常任委員会付託、閉会中の継続審査に付する件）

第10号議案

令和6年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算認定の件

令和6年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算は、別冊令和6年度関西広域連合歳入歳出決算書のとおりであるから、地方自治法（昭和22年法律第67号）第292条において準用する同法第233条第3項の規定により、議会の認定に付する。

令和7年8月28日提出

関西広域連合広域連合長 三日月大造

第11号議案

令和7年度関西広域連合一般会計補正予算（第1号）の件

令和7年度関西広域連合一般会計補正予算（第1号）は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算の補正)

第1条 歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ31,197千円を増額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ3,842,652千円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

(債務負担行為の補正)

第2条 債務負担行為の追加は、「第2表 債務負担行為補正」による。

令和7年8月28日提出

関西広域連合広域連合長 三日月大造

第1表 歳入歳出予算補正

歳 入

款	項	補正前の額	補 正 額	計
1 分担金及び負担金		千円	千円	千円
	1 負 担 金	1,922,029	△57,854	1,864,175
6 繰 入 金		531,219	29,684	560,903
	1 基 金 繰 入 金	531,219	29,684	560,903
7 繰 越 金		1	59,367	59,368
	1 繰 越 金	1	59,367	59,368
歳 入 合 計		3,811,455	31,197	3,842,652

歳 出

款	項	補正前の額	補 正 額	計
2 総 務 費		426,769	29,684	456,453
	1 企 画 管 理 費	426,251	29,684	455,935
6 広 域 医 療 費		1,779,263	1,513	1,780,776
	1 広 域 医 療 費	1,779,263	1,513	1,780,776
歳 出 合 計		3,811,455	31,197	3,842,652

第2表 債務負担行為補正

(追加)

事 項	期 間	限 度 額
ドクターへリ運行業務委託	令和8年度から 令和10年度まで	千円 3,859,872

令和7年8月定例会 質問項目一覧

	府県市	質問者	質問時間	質問項目
1	兵庫県	村岡 真夕子 議員 (一問一答)	10分	1 関西広域農林水産業ビジョンの実現に向けて (1) 農林水産業と異業種・異分野との交流・連携について (2) 都市と農山漁村との交流について
2	兵庫県	伊藤 勝正 議員 (一括)	10分	1 豊かな海の再生について 2 駆除したナガエツルノゲイトウの活用について 3 マイクロプラスチックごみ対策について
3	神戸市	住本 かずのり 議員 (一問一答)	8分	1 ワールドマスターズゲームズ2027関西大会について (1) ワールドマスターズゲームズ2027関西大会の魅力発信 (2) 「台北市・新北市大会」を参考とした観光促進等 2 広域連携による行財政改革の推進について (1) 土木職員等の人材確保 (2) 既存の事務・事業の見直し
4	京都府	田中 健志 議員 (一問一答)	16分	1 脱炭素への行動変容について 2 広域防災における防災リーダーの育成について 3 公立大学の連携について
5	京都市	椋田 隆知 議員 (一問一答)	8分	1 北陸新幹線大阪延伸について (1) 与党議員のルートの再検討等の方向転換を受けた関西広域連合としての今後の対応について (2) 沿線自治体による合意形成に向けた環境整備について
6	滋賀県	本田 秀樹 議員 (分割)	16分	1 ドクターへリにおける救急医療体制確保に向けた今後の対応について 2 関西広域産業共創プラットフォームについて (1) 具体的な成果と評価について (2) 評価を踏まえた今後の取組について
7	和歌山県	山家 敏宏 議員 (分割)	16分	1 ドクターへリの運航について 2 「新たな広域自治・行政のあり方研究会」について (1) 「新たな広域自治・行政のあり方研究会」設置の狙いについて (2) 関西広域連合の抱える課題について (3) 研究会に期待すること
8	奈良県	関本 真樹 議員 (一括)	16分	1 広域観光の推進について 2 広域連携による行財政改革の推進について 3 広域での職員研修について
9	徳島県	北島 一人 議員 (一問一答)	12分	1 高速道路の「暫定2車線」解消に向けての取組について 2 自衛隊との更なる連携強化について 3 紀淡海峡ルートについて
10	鳥取県	広谷 直樹 議員 (一括)	8分	1 ドクターへリの安定的な運航に向けた取組について
11	大阪府	富田 武彦 議員 (一問一答)	10分	1 関西経済連合会の提言を契機とした取組について 2 副首都構想について 3 北陸新幹線について 4 「関西ゴールデンルート」について 5 関西広域連合のマスコットキャラクターについて
12	大阪府	大橋 章夫 議員 (一問一答)	10分	1 最先端技術を活用した医療機関の連携について 2 ドクターへリの安定的な運航等について (1) ドクターへリの運航実績について (2) ドクターへリの運航停止について (3) ドクターへリ運航体制の再構築等について
13	大阪市	塩中 一成 議員 (一問一答)	12分	1 関西各地への観光周遊促進について (1) 大阪・関西万博を契機とした観光周遊について (2) 外国人観光客の受入環境整備について 2 関西広域連合の今後のあり方について
14	堺市	大林 健二 議員 (一問一答)	8分	1 関西における水素エネルギーの利活用の現状について 2 水素エネルギーのさらなる活用に向けて

本県選出議員の質問概要

北島 一人 議員

1 高速道路の「暫定2車線」解消に向けての取組について

(質問要旨)

7月14日、徳島自動車道において高速バスとトラックが正面衝突する事故が発生した。事故が発生した区間は、対面通行のいわゆる「暫定2車線区間」である。

徳島自動車は約8割が暫定2車線であり、近年、一部4車線化が進められているが、依然、非常に危険な区間が多く残る道路である。

この関西広域連合を組織する各府県においても、高い事故発生リスクをはらむ区間が多く存在している現状があり、このような状況は一日も早く解消すべきであると、私は強く思っている。

今回の徳島自動車道での事故後、後藤田徳島県知事は、事故翌日の15日に、西日本高速道路株式会社四国支社長と面会し、中央分離帯へのワイヤーロープ設置や新たな技術を活用した安全対策の実施など、再発防止について強く申し入れをされた。

8月21日には四国4県合同で、国土交通省に対し、死亡事故が利用者に大きな不安をもたらしているとして、早期の4車線化の実現と、道路中央部にワイヤーロープを設置することが難しい橋、トンネル前においても、その代替となる防護柵を試験的に設置し、安全性能を検証することなどの要望を行ったところである。

さらに、関西広域連合を構成する和歌山県、徳島県を含む南海トラフ巨大地震で大きな被害が予想される10県知事会において、災害時の緊急輸送路にもなる高速道路の早期4車線化などを国に求めていくことの申合せが既になされたところである。

関西広域連合においても、先般、策定された第5期広域計画でうたわれている、「関西における経済成長の牽引をはじめとする新次元の分権型社会の先導」あるいは「戦略的な観光・文化・スポーツ振興」、さらには「関西全体の連携での防災力向上」等、これらを実現させるためにも、連合を組織する府県にある高速道路の「暫定2車線の解消」について、関西広域連合として国へ強く要望すべきと考えるが、所見を伺いたい。

(答弁要旨)

○広域連合長（三日月 大造）

高速道路の安全性を向上させるため、8月8日に、四国4県の知事により、「高速道路の暫定2車線区間における安全性向上に関する共同宣言」がなされ、また、21日には、国土交通省に対し、「優先整備区間の4車線化の早期実現」、「暫定2車線区間の緊急的な安全対策」について要望されたと承知している。

関西広域連合としても、利用者の安全を確保し、高速道路ネットワークの機能を最大限発揮するため、国土交通省が示している暫定2車線の優先整備区間における、4車線化の早期実現を強く要望しているところ。

引き続き、高速道路の安全性向上と、関西の広域交通ネットワークの形成のために、構成団体と協力しながら、国への働きかけを行ってまいりたい。

本県選出議員の質問概要

北島 一人 議員

2 自衛隊との更なる連携強化について

(質問要旨)

自衛隊においては、さきの能登半島地震をはじめ、東日本大震災、熊本地震、また台風災害等の大規模災害の発生時において、その機動性を生かし、発災直後から被災地に迅速に部隊を展開し、救助・救出活動を実施されるとともに、その後の被災者支援などにも尽力されるなど、我々国民にとって無くてはならない存在である。

しかしながら、忘れてはならないのは、自衛隊の主たる任務は、他国からの武力攻撃を排除する国防（防衛出動）であり、災害派遣は、主たる任務である国防に支障のない範囲で行われる「従たる任務」と、自衛隊法に規定されていることである。

このことを踏まえると、大規模災害発生時においても万が一の「主たる任務」に支障をきたさないよう、迅速かつ的確な対応や指揮・統制能力の向上、関係機関との更なる連携強化、そして隊員の技能向上を目的とした、さらに現実的な訓練が必要不可欠ではないかと考える。

そこで、関係機関の一つである関西広域連合における広域訓練等において、このような考え方のもと、自衛隊との連携をこれまで以上に強化・充実を図るべきと考えるが所見を伺いたい。

(答弁要旨)

○広域防災担当 委員（齋藤 元彦）

自衛隊においてはこれまで災害時に、人命救助や給水等、様々な支援を実施いただいている。令和6年能登半島地震では、半島特性などにより被災地への進入や支援活動が困難である中、陸海空からの住民避難や物資輸送、長期化する避難生活での入浴等の被災者支援を実施いただいた。改めて災害対応における自衛隊との連携の重要性を認識している。

ご指摘のとおり、自衛隊の主たる任務は「国防」であり、災害派遣に当たっては、これに考慮する一方、南海トラフ巨大地震などの大規模災害の発災時には、自衛隊の持つ能力は不可欠であることから、その迅速な対応を確保するためにも、平時からの連携強化が必要と考えている。

このため、昨年に引き続き本年4月にも、三日月広域連合長と中部方面総監等との間で連携強化に向けた意見交換を実施した。また、関西広域連合が毎年実施する広域応援訓練や近畿府県合同防災訓練などへ自衛隊に参加いただくとともに、自衛隊が実施する南海レスキュー訓練や意見交換会に参加するなど、平時からの連携強化を図っている。

今後とも、南海トラフ巨大地震などの大規模災害発生時において住民の生命・財産を守り、安全・安心を確保できるよう、関西広域連合として構成団体と共に自衛隊との連携強化に取り組んでいく。

本県選出議員の質問概要

北島 一人 議員

3 紀淡海峡ルートについて

(質問要旨)

紀淡海峡ルートはわが国の「一極一軸型国土構造」から「多軸型国土構造」への転換を図るための一つの軸である「太平洋新国土軸」を構成するルートの一つであり、令和5年7月に閣議決定をされた「国土形成計画（全国計画）」にある「シームレスな拠点連結型国土」の実現に必要不可欠なものである。

私はこの紀淡海峡ルートの道路・鉄道整備は、「国土の双眼構造を実現し、新次元の分権社会を先導する関西」を目指す広域連合において、その実現に向けて強く推し進めていくべき課題の一つであるとともに、さらに言うと、関西広域連合は、この紀淡ルート整備実現の旗振り役でなければならないと考える。

しかしながら、関西広域連合として、毎年複数回の要望活動や様々な働きかけを行ってきたと思うが、目に見える進展がないというのが現実ではないか。

当然、これだけの大きな計画・プロジェクトであるので、様々な意見・思いはあると思うが、やはりここは関西広域連合という「組織」として掲げたものについては、その実現に向けて更なる要望・活動を推進していただきたいと思う。

そこで、これまでの要望等に対する国の姿勢をどのように感じているのか、また実現させるためには、これまで以上のアクションが必要であり、今後においてどのようなものが必要と考えているのか伺いたい。

(答弁要旨)

○広域連合長（三日月 大造）

紀淡海峡ルートは、第二国土軸としての国全体のリダンダンシーの確保はもとより、関西大環状道路等の実現に資することから、関西の発展ひいては日本全体の発展にとって重要なプロジェクトであると認識している。

しかしながら、国においては、紀淡海峡ルートは依然として構想段階のまま、次のステップが示されていない状況である。

関西広域連合では、これまで年2回の国の施策・予算に対する提案において、「高規格道路等のミッシングリンクの解消」、「関西大環状道路の早期整備」、「四国新幹線の整備計画への格上げに必要な法定調査の実施」などを要望しているところ。

また、和歌山県、大阪府、兵庫県、奈良県、そして徳島県などで構成される「関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会」や「紀淡海峡交流会議」においても、毎年、国に対し、紀淡海峡ルート実現に向けた提言がなされている。

引き続き、期成協議会等の活動も踏まえながら、関西の広域交通ネットワークの形成に向けて、国への働きかけを実施してまいりたいと考えており、8月29日、紀淡海峡ルートの現地視察を行う予定である。まず現地を見て、どういうことをこれから考えていかなければいけないのかという、まず一步を踏み出していきたいと考えている。